

## 審査の結果の要旨

氏名 崎田 マユミ

本研究は、与薬システムの安全性向上のための重要課題である与薬エラーの発生及び報告の背景状況とエラーの報告及びインシデント報告に関わる態度・行動に影響を及ぼす労働職場要因について、職場における社会的相互作用と労働職場状況に焦点を当てて定性的、定量的に明らかにすることを試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 面接調査の結果、与薬エラー発生の背景には複数の労働職場状況と潜在的組織状況が存在していることが示され、与薬エラーの発生に影響を及ぼしやすい職場の社会的相互作用として、「情報伝達・共有不足」「サポートが機能しない」「ケアの方針に関する協議不足」「指導が機能しない」の4つのカテゴリーが明らかにされた。さらに、与薬エラーの発生に至る過程を検討し、これらの社会的相互作用には組み合わせ易い潜在的組織状況と労働職場状況が存在していることが示された。
2. 面接調査の結果、インシデント報告に関わる態度・行動の進展過程として、看護師はインシデントの発生に伴い、「インシデントに直面し様々な感情を抱く」「インシデントを防止するために必要なことを考えて実践する」「インシデント報告に対してアンビバレントな感情を抱く」というプロセスを経て報告行動に至っており、「インシデントについてフィードバックを受けて話し合う」段階に至る者もみられることが示された。さらに、このプロセスを促進する背景状況として「師長や同僚からサポートを得る」「インシデントを共有することが必要だと思う」「普段から職場でミスや問題について話し合っている」「病棟・病院単位でインシデント報告からの改善活動を行っている」の4つのカテゴリーが抽出された。
3. 質問紙調査の結果、与薬エラーの報告3指標は、勤務シフト、情報伝達・共有不足、与薬業務進行の遅れ、および与薬への患者参加の少なさという労働職場状況と正の関連が示され、職場の安全風土の評価とも正の関連が示された。これらの関連性から、与薬エラーの報告にはエラー自体を誘発する要因とエラーの報告を促進する要因の2つの要素が関わっていることが示唆された。
4. 質問紙調査の結果、インシデント報告に関わる態度・行動4指標の関連要因を検討し、仕事の過重負担スコアが高いほど過度な自己非難・落胆スコアは高く、報告への主体性・積極性スコアは低いという関連が示された。また、職場の安全風土の評価スコアが高いほど報告への主体性・積極性スコアは高く、インシデント報告の積極的な運用観スコアも高いという関連が示された。
5. 職場の安全風土の評価の5下位尺度と注射エラーの報告及びインシデント報告に関わる態度・行動4指標との関連を検討し、注射エラーの報告とインシデント報告に関わる態度・行動に対する職場の安全風土の促進的な役割が明らかにされた。

以上、本研究は、与薬エラーの発生と報告の背景状況について、職場における社会的相互作用に着目し定性的に明らかにした。また、与薬エラーの報告とインシデント報告に関わる態度・行動とに影響を及ぼす労働職場要因について、職場の安全風土の評価尺度を作成した上で、労働職場状況と職場の安全風土のうちから定量的に分析し、与薬エラーの防止策として、エラーの原因の除去を図るとともにエラーの報告や報告からの学習を促進する労働職場環境づくりを図るという両面からのアプローチの重要性を明らかにした。よって、本研究は、労働職場における安全管理・教育の向上に係わる有用な知見を得ていることから、学位の授与に値すると考えられる。